

S01a **MAGIC 報告 3: MAGIC 望遠鏡による活動銀河核の観測**

高見一、齋藤浩二、齋藤隆之 (Max-Planck-Institut für Physik)、折戸玲子 (徳島大学)、櫛田淳子 (東海大学)、手嶋政廣 (Max-Planck-Institut für Physik / 東京大学宇宙線研究所)、林田将明 (SLAC / KIPAC)、宮本寛子 (理研)、他 MAGIC Collaboration

MAGIC 望遠鏡はスペイン、カナリア諸島のラ・パルマ島に置かれている 17 メートルの直径を持つ鏡からなる世界最大の解像型大気チェレンコフ望遠鏡であり、世界で稼働している大気チェレンコフ望遠鏡の中で 50GeV という最も低いエネルギー閾値を達成している。この低いエネルギー閾値はフェルミガンマ線望遠鏡の観測するエネルギー領域とのオーバーラップを実現しており、MAGIC 望遠鏡は銀河系内・銀河系外の天体からの GeV-TeV 領域のガンマ線放射の理解のための強力な観測データを提供してきている。

本講演では最近の MAGIC 望遠鏡による活動銀河核、特にいくつかのブレーザーの観測結果について紹介する。ガンマ線流量の時間変動やソースにおける吸収はガンマ線の種となる高エネルギー電子・宇宙線の加速領域に関する情報を与える。このような観点から観測結果の物理的な解釈について議論する。